

WORLD Times

14年4~5月号

・目次・

- P1・2・3 社内行事、ボランティア活動
- P4 新着ニュース
- P5 イベント
- P6・7 取り組み実績
- P8 シリーズ
- P9 シリーズ

平成26年度 入社式・新年度始め式

4月1日(火)

平成26年度入社式ならびに新年度始め式が執り行われ、今年は新たに5名の新入社員を迎え入れました。今年度の業務も、経営理念のもと、社員全員で一致団結し業務に取り組んでまいります。



導入教育として、就業規則や会社方針等の説明の後、和田社長、会社幹部と会話形式で『共に学び、共に歩む』昼食研修会が行われました。



『新入社員研修講座』社内報告会

4月9日(水)

発表者5名のそれぞれ感じたことや自身の目標

・調査課 吉原潤平

今回の新入社員研修を受けて、社会人の基礎についての知識を学びそして社会人としてこれから歩んでいくための学生から社会人への切り替えをスムーズに行うことができました。この研修で得た経験を、日ごろの生活の基礎としてこれからの成長に活かしていきます。

・設計二課 小川晶徳

今回学んだPDCA・報連相などの基本を常に頭に置くよう心がけます。

また、今の自分には無い「失敗から学ぶ挑戦心」を持つ努力を継続したいと思います。

・設計一課 昌子伶太

新入社員研修では、社会人としての自覚を持つこと、マナーを身につけることの大切さを学びました。社会人として責任を持った行動ができなければ、いくら技術があっても、良い技術者にはなれないと思います。今回の研修で学んだことを忘れず、人間的にも、技術的にも成長していきたいです。

・測量補償課 山根勇哉

フィードバックを行うことで感じる実際の改善点、例えば言葉の詰まりなどを今後減らせるようにしていきたいです。

目標として、自分に任せられた事はきちんとこなせるように勉強を怠けずにしていきたいです。

・測量補償課 平野雅之

今回のフィードバックは研修で受けたことを改めて学びなおすことができました。早い段階で学んだことをできるだけこなせるように、今のうちから電話対応などを積極的にしていきたいです。

新入社員5名が参加した、島根県経営者協会主催『新入社員研修講座』の社内報告会を行いました。

報告会では、研修で習得した社会人としての基本マナー等の内容をフィードバックし、5名それぞれが感じたことや自身の目標を発表しました。

報告会を通じて、新入社員のみならず全社員が初心に戻って社会人として大切なことをあらためて気付くことができ、とても有意義な報告会となりました。

今後も社員同士が互いに切磋琢磨し、共に成長していけるよう、「人間力向上」に努めていきたいです。



今年も、当社の技術サービスのより一層の向上を目指し、平成25年度業務の業務成果発表会(兼社内技術発表会)を開催いたしました。

今回の発表会は、「PDCAを実行し、より高い技術サービスの提供」というテーマのもと、7編の発表がありました。発表業務は、お客様から高い評価を頂いた業務、本年度初めて挑戦した新規分野、やや特殊な分野、新しい技術の提案、などなど幅広い分野から選択していったものでした。今回発表のあった業務だけではなく、これまでの業務の良い点、悪い点も貴重な経験として、今後を活かし前進していきます。

～ プレゼン表彰・優良業務表彰 ～

優良業務表彰

◎最優秀賞

13-104 簸川西地区用地調査

○優良業務

- 12-093 中山間 美郷地区 調査計画(その2)
- 13-019 幡屋地区道路用地(その2)
- 13-026 雲南北地区農業用水施設
- 13-076 真名井矢野線道路美装化
- 13-078 佐田地区用水路
- 13-087 日御碕鷺浦送配水管

プレゼン表彰

◎金賞

①13-172 R9益田地区道路付属物外点検
発表者: 錦織伸治・林 哲弘

○銀賞

- ②13-078 佐田地区用水路
発表者: 瀬島浩司・井上 俊
- ⑤13-087 日御碕鷺浦送配水管
発表者: 池田和広

○銅賞

- ③卒論 地すべりデータ解析
発表者: 吉原潤平
- ④13-104 簸川西地区用地調査
発表者: 石原正之

発表内容

①13-172 R9益田地区道路付属物外点検

発表者: 錦織伸治・林 哲弘
概要・選定根拠: 新規分野。過去の知見のない業務の苦労と対応。

②13-078 佐田地区用水路

発表者: 瀬島浩司・井上 俊
概要・選定根拠: 高評価。用水路の維持管理、更新は今後とも参考にできる。

③卒論 地すべりデータ解析

発表者: 吉原潤平
概要・選定根拠: 新入社員発表。

④13-104 簸川西地区用地調査

発表者: 石原正之
概要・選定根拠: 評価。業務上の留意点および遂行。

⑤13-087 日御碕鷺浦送配水管

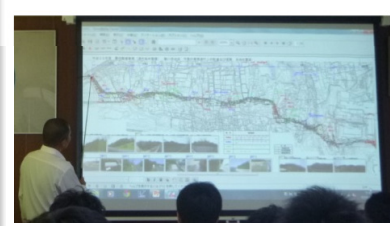
発表者: 池田和広
概要・選定根拠: 基本プランからの流れ。

⑥13-171 斐伊飯石地区雪崩防止

発表者: 岡田 健
概要・選定根拠: 特殊構造物についての検討業務

⑦13-115 静間仁摩軟弱地盤対策

発表者: 花本孝一郎
概要・選定根拠: 軟弱地盤の近接施工に対し、FEM等の技術提案を実施。



社宅地鎮祭

5月20日(火)

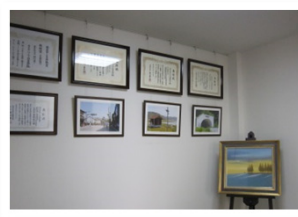
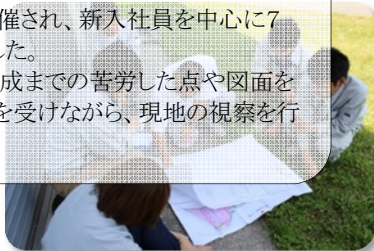
斐川町直江に新築予定の、社宅の地鎮祭が行われました。神事では、祝詞奏上の後、玉串を捧げ、参加者全員で工事の安全を祈りました。社宅完成に向けて、いよいよ着工が始まります。準備に携わっていただいた関係者の皆様に感謝を申し上げます。



現場見学会開催

5月31日(土)

過去に優良業務表彰を受賞した3業務の現場見学会が開催され、新入社員を中心に7名が参加しました。林主任より、完成までの苦労した点や図面を用いての説明を受けながら、現地の視察を行いました。



撮影した現場の写真は社長室前に飾られています。

H23年度・神門中筋線 県単街路事業 道路詳細設計・電線共同溝詳細設計業務委託



神門通りは、出雲大社の歴史を感じさせる景観になっているが、この設計の裏では、何度も協議が重ねられていると知り、地元の人が望む形になるよう努力することが良い設計をするために大切だと思った。

設計一課 昌子怜太

H18年度・国道375号線忍原(改良)トンネル詳細設計



ただ穴を掘るのにも様々な地質に合わせてものを用いていること、落石についてシミュレーションなどを使って対策をとったりなど、その他にも色々なことをしてやっと安全なトンネルを作れると聞き、想像より遥かに大変な作業だと思いました。現地で直接聞くことができ、とてもためになりました。

測量補償課 山根勇哉

H20年度・養賀原地区 経営体育成型基盤整備事業 揚水機場等実施設計業務



馴染みのある地域ということもあり、興味深く見学させていただきました。周辺には多くの農地、民家や企業などが多くありました。その大変配慮が必要とされる中の、丁寧な仕事の成果を見る貴重な機会となりました。

設計二課 小川晶穂

しまね企業参加の森づくり

5月31日(土)

松江市八雲町日吉にて、島根県森林土木技術協会主催の『しまね企業参加の森づくり』が行われました。当社からは3名が参加し、下刈り、雑木の片づけなどの森林整備に取り組みました。今回の活動は、平成22年度から25年度の4年間に渡り整備を行ったエリアで行われ、当時植えた桜も背丈以上に成長しているのが確認でき、感動しました。今年秋にもこのエリアで植林を行います。今後もこの活動を通じて「森林整備」「温暖化防止」に貢献できるよう、積極的に関わり活動していきます。



ハートフルロード

実施報告

第1回 4月25日(金) 45名

第2回 5月19日(月) 45名

毎年行なってきた今活動ですが、最近では地域住民の方々からお礼のお言葉をいただくようになり、より一層活動への励みとなっております。地域の方々のご協力、ご支援をいただき、今後も継続して活動に取り組んでまいります。



平成26年度 委員会・互助会 発足

理念委員会

- ◆年間目標(スケジュール)
毎月末勉強会を実施します。
- ◆活動方針
 - ①「理念と経営」を読んで様々な企業の判断基準や価値観を知り、新しい事に気づく。
 - ②仲間の判断基準や価値観についてコミュニケーションを通じ共有・共感する。
 - ③組織の中で成長する事の意味を見つける
- ◆委員長からひとこと
以上の3点を意識して、皆さんが成長できるようサポートしていきます。

◆委員

- ◎渡邊祐平 ○陶山達也
- 内田裕美 ○井上 俊
- 中村友美



朝礼委員会

- ◆年間目標
「13の徳目」朝礼での発表率100%
- ◆活動方針
お客様満足のために、人の意見を聴いて考える
集団づくり

◆委員

- ◎岡田 健 ○花田多恵子
- 荒木ひとみ ○武田絵美
- 吉永雄太



新入社員紹介

5月1日に、2名の方が入社されました。

上山善道(うえやまよしみち)さん
品質管理部
技術士(下水道)

「会社の第一印象と私の思い」
アクティブでフレッシュな皆様と共に、
社業の発展を共有したいと思います。
宜しくお願い致します。



近藤膺舒(こんどうむねのぶ)さん
品質管理部
技術士(鋼構造)

※近藤さんからは、自己紹介を兼ねた
コラムをいただきました(P8)



平成26年～28年度 互助会

- ◆会員
- ◎会 長 國清智之
- 副会長 黒川英樹
- 会 計 花田多恵子
- 体育委員 木村敏隆・岡 智宏
- 文化委員 矢田亜沙美・中村友美
- 娯楽委員 佐藤正興・岡田 健
- 会計監査 金折伸治



即調システムおたすけ君～災害支援バージョン～が、4月20日発刊の山陰経済ウイークリーに掲載されました。

今後も県・市町村や同業コンサルタントなど様々なお客様に「おたすけ君」を知ってもらい活用していただける商品となるよう、更なる研究・開発を進めるとともに営業活動を行なってまいります。



5月17日(土)、島根大学にて「山陰防災フォーラム 2014春の講演会」が開催され、設計一課の高橋宏道さんが発表されました。

発表内容
○平成25年島根県西部豪雨災害の対応事例紹介

パブリックスペース「和」オープン記念親睦会

4月20日(日)

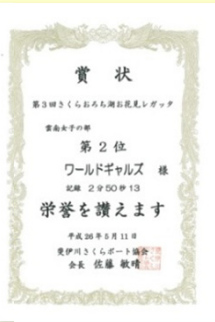
かねてより修繕工事を進めておりました、技術開発室の別館がレンタルスペースとして完成し、4月20日に「Public space 和(なごみ)」としてオープンいたしました。オープン日には社員のご家族もお招きし、BBQや餅つきを楽しみました。オープンしたばかりの「和」ですが、展示会やセミナーなど様々なイベントに利用していただけるスペースとなるよう、多くの方々に知っていただきたいと思ひます。



第3回 さくらおろち湖お花見レガッタ

5月11日(日)

ワールドギャルズ準優勝!



- ワールドA 準決勝進出
即興チームでしたが、さすがのレース展開でした!
- ワールドB 予選敗退
初参戦の新入社員チームでしたが、懸命に頑張りました!
- ワールドギャルズ 準優勝
まめが潰れるほど必死でした!

雲南市木次町の「さくらおろち湖ボートコース」にて、『第3回さくらおろち湖お花見レガッタ』が開催されました。当日は快晴に恵まれ、強い日差しの照りつける中での競技となりました。

県内各地から69クルー(約500名)が出場し、当社からは男子A、男子B(若手社員)、女子チームの計3クルーが参加しました。

あたたかい声援を励みに、雲南女子の部で見事、準優勝を果たすことができました。

大会関係者の皆様に深く感謝し、心よりお礼申し上げます。

第46回 ソフトボール大会

5月24日(金)

斐伊川河川敷公園にて、中国地質調査業協会主催の『第46回ソフトボール大会』が開催されました。昨年、優勝を果たした今大会に向け、23日(金)には事前練習と決起集会が開かれ気合いを入れました。

2連覇を目指し挑んだ今大会では、多くの応援が見守るなか白熱した試合が繰り広げられ、見事2連覇を果たすことができました! 来年も3連覇を目指します!!



2連覇

!

4月

◎社内環境整備

●各フロアのカーペットの張り替え・席替え

社員全員で協力しながら取り組みました。全フロアともあってとても大変な作業でしたが、美しい社内に生まれ変わり、過ごしやすい環境が整いました。



◎新規導入

●コーヒーマーカー

「ネスカフェバリスタ」「ネスカフェドルチェグスト」の2台のコーヒーマーカーを導入しました。淹れたてのコーヒーで、社員の皆様にも大変喜ばれています！

●血圧計、マッサージチェア

休み時間のリラックスタイムにどんどん活用していきましょう。

●デジタルサイネージ

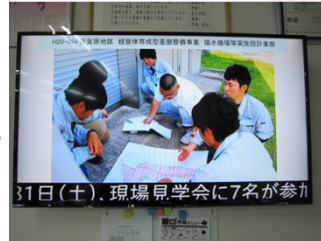
入札情報や業務連絡などの周知が、素早く共有できるようになりました。

●デスクネット

社内ツールを“Notes”から“desknet's NEO”に切り替え、パソコン上での情報伝達がしやすくなりました。

●シャワールームの設置

かねてより要望のあった、シャワールームが設置されました。



◎社内環境整備

5月



●草取り、除草剤の噴霧

5月16日(金)の社内環境整備では、草取り、除草剤の噴霧、溝掃除などを行ない、駐車場や社屋周辺がとても綺麗になりました。

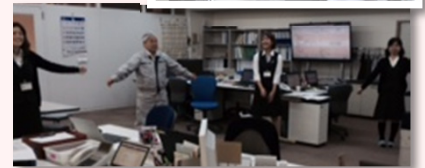
◎新規導入

●ラジオ体操

各フロアでデジタルサイネージを利用し、ラジオ体操を導入しました。ラジオ体操の時間は、ホッと一息つくとともに皆が笑顔で行なっています。体を伸ばし息抜きをすることで、残りの仕事にもより一層集中して行えるようになりました。

●公式戦チケット配布(福利厚生)

- ・広島カープ 公式戦観戦チケット配布
- ・サンフレッチェ広島 公式戦チケット配布
- ・県立浜山公園体育館 トレーニング室回数券の貸出し



昼食会



今年度も、コミュニケーション力の向上と意見交換を目的とした『理念勉強会』、『理念懇話会』、『昼食会』を毎月行なっております。

●理念勉強会

第1回 4月実施

●理念懇話会

第1回 4月・5月実施
「平成25年度全体会議」の詳細

●昼食会

第1回 5月12日

理念勉強会

理念懇話会

4月

◎社外研修参加実績

- 4月2日
「新入社員研修講座」
吉原潤平、昌子怜太、小川晶穂、山根勇哉、平野雅之、内田裕美
- 4月7日～8日
「コンクリート診断士講習会」
高橋宏道、岡田 健
- 4月23日
「GNSSによる基準点測量技術講習会」
田中 泰
- 4月23日
「実践ビジネスマナー研修」
矢田亜沙美
- 4月25日
第一回土木技術講習会「高速道路の維持管理に学ぶ」
岡 智宏、高橋宏道



履修記録

「第一回土木技術講習会『高速道路の維持管理に学ぶ』」

H24年に山梨県大月市笹語調で起きたトンネル天井版落下事故以来、高速道路施設の維持管理への関心が全国的に高まっている。また、H5の阪神淡路大震災での高架橋の落橋以来、耐震性能の要求が高められてきたが、H23の太平洋沖大震災を受け、さらに今後、南海トラフ大規模地震が想定されるため、高速道路の耐震性能はますます求められてくる。また、震災のみならず、土砂災害未然防止のための、土構造物の維持管理技術が求められる。

高速道路に限ったことではないが、維持管理については、その熟練者が少なく技術者不足が懸念されている。しかし、今後は確実にそのニーズが増えてくる。島根県下においても、高速道路は、H24には尾道松江道が開通し、山陰自動車道も徐々に整備が進められており、その維持管理のニーズは必然的に増える。今回の講習会を契機に、高速道路のみならず、他分野の維持管理技術にも関心を寄せ、その技術の展開に注目していきたい。

設計一課 岡 智宏

5月

◎社外研修参加実績

- 5月12日～16日
「新入社員等研修会」
井上 俊、岡 智宏
- 5月16日
第二回土木技術講習会「セメントの利活用」
岡田 健
- 5月30日
第三回土木技術講習会「簡単な土木構造物の調査・設計」
瀬島浩司

履修記録

「新入社員等研修会」

それぞれのフィールドのプロフェッショナルの方から貴重なお話を聞くことができ非常に有意義な5日間でした。

今回の研修を通して印象に残ったワードは、点検・補修、長寿命化といったところです。多くの講義において、これからの建設業界は、点検・補修の技術が求められてくるということを強調されました。当社においても、昨年度は道路付属物の点検業務を初めて受注したところであり、今後もそのニーズに応えられるよう、ノウハウをしっかりと学んでいく必要があると感じました。

また、入社して1～3年目までは、最も成長する時期であるということを多くの講師が言われました。自分がそういった大事な時期にあることを常に意識して日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。

設計一課 岡 智宏

本研修では、ビジネスマナーをはじめ、コンクリート構造学、橋梁の設計、点検、電子納品システム等について学びました。2日目は、現地視察で安芸灘大橋、国土交通省安芸出張所に行き、橋梁の構造、太田川の治水等について学びました。他県の現場視察はなかなかできることではないので本当に良い経験だったと思えます。

5日間という長い間、研修に行かせていただき大変感謝しています。この研修で学んだことを、普段の業務に活かしていきたいと思えます。

設計一課 井上 俊

「理念と経営」6月号 おすすめ記事
by 理念委員会

P82

「実録、名教師のポジティブ教育論」

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話』(坪田信貴氏著書)の教育論です。



ありがとう

5月は私の誕生日があり、当日にはたくさんの方からプレゼントや「おめでとう」の言葉をいただきました！生まれてきたことの嬉しさと皆さんのあたたかさがありがとう！！

業務課 武田絵美

3月より、総務課の一員として勤めています。日々、分からない事が多くあり戸惑う事ばかりですが、忙しい中でも丁寧に教えて頂いて、時には一緒に手伝って頂いたり、仕事のみではなく多くの事を学ばせて頂き、皆様に感謝をしながら一歩ずつ成長していきたいと思っています。いつもありがとうございます。

総務課 板垣友里

おすすめ
図書館

「女のいない男たち」

著者：村上春樹

村上さんの作品にしてはわかりやすく読みやすい作品である。

幼想的な世界魂がふんだんに表現されている。言われてみれば、ありふれているような感情がありふれていない表現で表されているのがいつもながらすごい。全体を通して男たちを囚えて離さない女たちの姿に女性の謎めく“神秘”を感じさせてくれる一冊です。



業務課 荒木ひとみ

コラム 『私の“橋屋”人生』

本年5月1日付けで入社しました近藤です。

私は昭和43年に北海道大学工学部を卒業し、川崎重工業(株)に入社しました。川重では長大橋調査研究室という部門に配属され、吊橋設計プログラムの開発や試設計、海中ケーソンの位置決め実験等に携わったあと、昭和47年に首都高速道路公団の荒川湾岸橋鋼橋脚の設計主任を命じられました。これは、鉄骨フーチングと一体となった鋼橋脚を、フローティングクレーンによって現地に輸送・設置したあと、海中でプレキャストコンクリートを打設するという前例のない特殊構造物で、まさに悪戦苦闘の2年間でした。鋼橋脚の岸壁での引き渡しに立ち会った直後に過労で倒れ、その後10か月間の入院と1年間の休職を余儀なくされました。

職場復帰後は、ビッグプロジェクトである種子島のNロケット発射設備や、関西海上空港のパイルジャケット方式による滑走路の計画や設計に携わったあと、鋼箱桁橋の中間ダイヤフラムの研究チームの一員として、約3年間研究に携わりました。研究成果は、『鋼道路橋設計便覧(日本道路協会)』や各公団の設計基準等に採用され、今日でも鋼箱桁橋の設計に適用されているようです。

その頃から、橋の調査・計画といったコンサルタント業務への転身を志向するようになり、丸腰では心もとないと思い、昭和53年に技術士の資格を取得したのち、昭和55年に(株)長大橋設計センター(現(株)長大)に入社しました。入社後、いきなり本州四国連絡橋公団の南北備讃瀬戸大橋(吊橋)の主塔の景観設計や構造設計を任せられ、“ずいぶん荒っぽい会社だなー”という印象を受けました。

その後、北海道、岩手、福島、千葉といった地方の橋を担当し、千葉では3年間、事務所長として経営・営業・技術等を掛け持ちし、その後のコンサルタント人生にとって、貴重な経験をする事ができました。

その間、生まれ故郷の室蘭に架かる、北海道開発局の白鳥大橋(吊橋)の風洞実験による積雪時の耐風安定性の検討に携わったあと、平成2年から6年にかけて、長大橋部の部長として、コンサルタントでの設計の最終段階にあった、本四連絡橋の多々羅大橋(斜張橋)と明石海峡大橋(吊橋)という、二つの世界一(当時)の長大橋に、管理技術者として携わる幸運に恵まれました。

私にとっては、産みの苦しみの中でも、充実した、橋屋真利に尽きる4年間でした。海外においても、トルコ、韓国、台湾、中国、ベトナム等の長大橋に関わる機会を得ましたが、最も印象深かったのは、平成4年に国際建設技術協会の調査団(4名)の一員として、イタリアのメシーナ海峡大橋やスペイン～モロッコ間のジブラルタル海峡大橋の現地調査に参加したことで、イタリア、スペイン、モロッコ等の多くの技術者や研究者との技術ディスカッションや、完成した橋の姿を思い描きながらジブラルタル海峡をフェリーで横断して、アフリカ大陸に上陸したことなどは、生涯またとない貴重な体験でした。

その後、営業本部という部署で営業の統括業務を担当し、平成9年から3年間、老骨に鞭打って北大大学院博士課程で学び、平成12年(2000年)に明石海峡大橋の研究で工学博士の学位を授与されました。

この度、縁あって入社することになりましたが、以上の経歴からお分かりのように、今後の受注業務に私の経験がうまくマッチングするかどうか分かりませんが、会社の発展に少しでも貢献できるように微力を尽くしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

近藤脩舒

コラム『母の日』

一昨年、昨年は何かをした記憶があるのですが、今年はそういえば結局なにもしていなかったなあ…。とこの文をしたためつつ、思い出して反省しています。身近な人になかなか改まって感謝を伝える機会がどうしても少なくなりがちで、そういう事をするのも正直照れくさい…。というのがあります。

子どもができて親になってそろそろ一年になります、ほんの少しかもしれませんが、親の気持ちというのも芽生えつつ、子育てって大変だな、と改めて感じると同時に、自分を育ててくれた親に対する感謝の気持ちというのを感じています。

身近な人でもそうでない人でも、感謝の気持ちを伝える、感謝の気持ちで接する、というのはとても大切なことだと思いますので、母の日とかそういう日とかにこだわらず、素直に「ありがとう」と、常に感謝の気持ちを言える人間になりたいのと同じように、そういう人間関係でありたいと思った今日この頃です。

来年は何かできたら、と思います。

情報システム課 吉永雄太



コラム『入社当時に振り返る』

私がワールド測量設計に入社したのは昭和50年(1975年)の4月1日です。

その当時、会社の事務所は出雲大社近くの現会長の自宅の2階にありました。障子で仕切られた和室の8畳の間4部屋の障子を取り払い1フロアにした、そこが事務所でした。玄関から階段を通過して2階にあがった所に今は使われなくなった青焼機が置かれていました。(今年、入社した人は青焼機といっても何をやる機械か分からないでしょう。)

入社当時のワールド測量設計は市町村発注の農道、市町村道、畑地造成や圃場整備の仕事等を行っていたと思います。広瀬町、横田町、仁多町、木次町、頓原町、赤来町、大田市、仁摩町、温泉津町、石見町あたりの現場に出かけていたのではないのでしょうか。

当時、測量器材として使用したのは、平板、セオドライト、ティルティングレベル、オートレベル、木製の箱尺(スタッフ)、エスロンテープ、スチールテープ、縄尺等でした。今は、平面図上で線形を設定し、計算ソフトを使って線形計算を行い、基準点にトランシットを設置し、道路中心線を打設するという方法を取っていると思います。私が入社した当時は現地でコントロールポイントを基に設定した道路法線を測角し、曲線表、クロソイドブックと電卓等を用い、線形計算を行い、道路中心線を設置していました。平面測量は設置した道路中心線に平板の器械を設置し、アリダードで視準したポイントをマイラー用紙上にプロットし、結線し現況地形図を仕上げて行きました。その後、レベルやトランシットを使って、縦横断面測量を実施、これは、今も変わらないと思います。

測量で得られた成果をマイラーに墨でトレースし、それを原図として、設計を進めて行きました。

平面図原図はジアゾユニパーという感光するマイラー用紙のようなものといっしょに青焼機に通し、第二原図を作成し、その第二原図に計画線を記入して行きました。第二原図に計画を記入し、もう一度、青焼機使って同じ作業をすれば第三原図を取ることができました。計画線は三角定規、カーブ定規(単曲線)、クロソイド定規、三角スケール等を使い、筆記具は鉛筆を使用していました。土工数量は横断面上の計画断面をプランメーターで計測し、土工計算は電卓を使って計算し、専用のトレーシングペーパーの計算用紙に鉛筆で記入して行きました。

今のようにパソコンもキヤドもエクセルもなく、すべて手作業で設計を行っていた時代でした。今に比べれば、同じ設計作業を行うのに倍ぐらいの時間を要していたかもしれません。でも、設計に関する基本的なことは徹底的に鍛えられたとも思います。

自分としているんな業務をしてきた経験から、若い人に、分からない業務が巡って来たとしても自分なりに工夫し考え、積極的に取り組んで行ってもらいたいと思います。

検査課 長廻 隆

